

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902724		
法人名	株式会社 北海道クオーレ		
事業所名	グループホーム せせらぎⅡ		
所在地	旭川市永山7条4丁目2番1号		
自己評価作成日	令和4年6月15日	評価結果市町村受理日	令和4年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は変わりましたが、職員への対応はほとんど変わらないため安心して働く事が出来てます。施設長も看護師の為、いつでも相談にのりアドバイスが頂けます。また、コロナウイルス感染対策や外部に行けない研修もリモート設定をして感染対策をしながら勉強させて頂く機会を作ってもらえます。色々な面で職員が不安や負担を感じる事が無いよう施設長がいつでも窓口を作ってくれています。面会や外出が出来ない利用者様のストレスを軽減する為職員が自由に企画をたてた事を一緒に楽しんでもらえる環境があるという事は働き甲斐があると思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0192902724-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年7月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、商業地と住宅地が混在した永山地区にあり、国道39線からも程近く、スーパーやコンビニなども徒歩圏内で、生活環境として整った環境下に立地している。令和3年に運営母体が変わり、事業者名も「せせらぎの里」から「せせらぎⅡ」となったが、今まで通りの良質な介護の継続を指向する姿勢を保っている。当事業所は働きやすい現場を目指しており、身体に無理をしない介護に心がけ、開設時から前傾姿勢支持テーブルを全トイレに取り入れ、浴室は大きく、車いすも可能なリフトを両ユニットに導入する等々、利用者や介護者を守る運営姿勢を貫いている。安心出来る医療体制も特筆したい。医療面において、施設長が看護師であるため、いかなる時間であっても的確な医学的な判断が下され、また母体関連に医療法人もあり、利用者やその家族だけではなく介護職員にとっても安心して仕事を遂行出来る職場となっている。新しく再出発をした「グループホームせせらぎⅡ」の今後に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通い易い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に地域と交流を掲げ毎朝唱和している	4項目からなる理念を重要事項説明書にも明記しており、事業所内でも掲示し、毎朝唱和する事で理念の共有につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 2023/6/15	町内会に加入し資源回収に協力している	近隣の保育所等と相互交流を行ってきたが、コロナ禍で相互に自粛している。町内会の資源回収に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア専門員がいる為相談窓口を設置している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議を予定しているが、コロナ感染蔓延防止の為集まりを中止して書面にての開催を行っている	コロナ禍であり、書面やリモート等々状況に応じた開催方法となっている。基本として、運営推進会議は包括、家族、町内会役員の参加で2ヶ月毎の定期に開催、行事や事故・ヒヤリハットを報告し、意見を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、消防の方にも運営推進会議を開催していた時には参加して頂いている	市の窓口とは適時、指導、アドバイスを受け、介護保険の更新や区分変更の申請時に各種情報も交換しながら、信頼性の高い関係継続に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1度身体拘束廃止委員会を開催し意見を交換している	2ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。議事については、現状の介護内容の検証や事例検討等で、都度職員に周知徹底し、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	二か月に1度虐待防止委員会を開催し態度や言葉使いについて話し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は外部研修に参加していたが、コロナウイルス感染蔓延防止の為外部研修がない状態ではあるが手持ちの資料などをもち施設内研修計画をたてる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がその方たちが納得されるまできちんと説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、要望などあれば繁栄できる様準備は行っている。	要望や苦情について、玄関に意見・苦情箱を設置している。来訪時の聴取、外部評価機関でのアンケート調査等を基に問題点について検討し、サービス向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	二か月に1度の全体会議で意見や提案を出せる場を作っている	全体会議や申し送りの場で職員の提案や意見は聞き取っており、また、必要により施設長との個別面談の場も設定し、忌憚のない意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休・有休など希望により反映され、昇給もあり、やりがいを感じている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修を大いに活用し、参加の声を職員の負担にならないように配慮しながら計画している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染蔓延防止の為研修は施設内にて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で希望・要望があれば聞き入れ安心していただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様や他のケアマネ・看護師のサマリを参考に他にどのようなサービスが必要か細かい所まで聞き反映に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報をもとに、色々な角度から見極めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事を見極め、掃除や食器拭きの作業を職員と一緒にしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況により対応している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染が流行している為面会は出来ないがリモート等活用している	これまでの人間関係や馴染みの場所、味も忘れないよう支援し、友人・知人の訪問も促している。通例では、好きな場所へも同行し、馴染みの人や場所と疎遠にならないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が一緒に作業や行事を通して関わり合い支えあう関係作りができる様になっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談や支援を継続できる様にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向の把握に努め必要な時はカンファレンスを行い本人本位に検討している	生活を支える中で希望や思いを理解し、本人の意向に沿えるように努めている。意思疎通が苦手や困難な場合でも、仕草や表情、また、本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のフェイスシート・アセスメント表を元にご本人の話を聞いたり、ご家族様の話を聞き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌の記入・ケアプランの評価を行い現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員がモニタリング担当し全体会議で話し合い現状に即したプランの作成が出来ている	家族や医療の意見を踏まえ、全職員の視点を集約し、検討を重ねて作成している。また、病変等があった時は随時変更し、現実に対応した介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌の記入・連絡ノートを活用し見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の要望に応じその時のニーズに対応し柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に応じ取り組んでいる		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	主治医のほかにかかりつけ病院で本人の状態に合わせて適切な医療を受けられるよう支援している	通院は職員が同行し、日頃の状況を的確に伝えている。利用者の健康状態は、看護師の施設長が把握しており、安心できる医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師である為日々の小さな事でも報告相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長・管理者が病院関係者と連絡をとり早期に退院が出来る様努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	そのような状況になった時は、家族様と話し合い、意向確認を行い医師と連携し指示対応する	重度化や終末期に於ける対応は、契約時に文書で説明し同意を得ているが、看取り体制確立には至っていない。重篤となった場合は、本人や家族の希望により、出来る範囲で寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今はコロナウイルス感染がある為中止していますが、以前は消防署の協力を仰ぎAEDや人口呼吸の講習を受け実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練をおこなっている	年に2回、消防署の指導により避難訓練を町内の連絡網に基づいて、地域住民の協力も得て実施している。	自然災害に関する避難訓練内容の充実と家族、関係者への避難場所の周知を検討している。進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	2ヶ月に1度全体会議で意見交換し人格を尊重したケアを行う様努めている	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いやプライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望表明・自己決定できる様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはおおよそには決まっているが利用者様の気持ちや体調に合わせ希望に添える様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用しその人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き等利用者様と職員と一緒にやっている	配食サービスを利用しており、栄養価やバラエティに富んだ食事を提供している。また、行事食やおやつ類は職員が手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が管理している。食事や水分は毎日記録し少ない時は個別に好みの物を準備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後・毎食後口腔ケアの援助を行っていたり、訪問歯科を受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録をつけて排泄リズムを把握しトイレでの排泄の自立支援をおこなっている	排泄はトイレで行うことを原則とし、時間での誘導や仕草や動きも把握・記録している。また乳酸品や軽い運動も取り入れながら、自然な排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事量・水分量に気を配り、必要時には医師の指示を受け整腸剤・下剤・坐剤の使用援助		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望を考慮し、曜日や時間をずらす等個々に沿った支援している	各利用者の体調や希望を優先し、毎週2回以上入れるよう努めている。浴室備え付けのリフトを活用し、不自由な利用者も職員も安心出来る入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室で安心して休息して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬のセットをする事で個人の内容を把握している。変更があれば管理日誌に記録し個々にそった支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事には参加を声かけし、楽しみのある生活を送って頂ける様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で規則があり実現出来ていない	コロナ禍であり、連れ立っての外出は困難となっている。通例では季節のドライブの他、散歩を日課として出歩くように努め、近所の庭を拝見したり、買い物に出かけたり、体調や天候を考慮・相談しながら、閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本事務所管理ですが、個々でお財布を持っている方もおります。受診や・買い物等希望に応じています。個人で携帯電話を持っている方もおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時の電話は事務所に対応しています。リモートを使えるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間を清潔に保ち季節感のある様に心がけています。居心地の良いスペースになっております。	居間兼食堂は大きな窓を有し、採光が良く明るい雰囲気を出している。また、装飾類も華美を避け、季節の花々を多く取り込み、落ち着いた居心地のいい共同空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゲームを楽しんだりテレビをみて頂いたり一人一人が好きな場所で過ごせる様工夫しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	前室個室になっている	昔から親しんだダンスや椅子が置かれており、温度や湿度も適正な環境の中で、壁には家族写真も見られる等、自分の部屋として過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーで完備され安全に生活が送れる様工夫されている		